

牛久：学校周辺に見る自然

第47号 ひたち野うしく小

2020年12月5日発行

＜ 秋のみずべ公園 ～⑥セミ・カメムシのなかま ＞

ひたち野うしく小4年生と歩いた秋のみずべ公園、今回はセミやカメムシ、アブラムシのなかまです。



アブラゼミの死体（左）とぬけがら（中）、ツクツクボウシのぬけがら（右）。

10月半ばというのに、まだアブラゼミの死体がありました。ぬけがらは、あちこちでたくさん見つかりましたね。ニイニゼミや、ツクツクボウシのぬけがらもありました。セミの口は針のようで、幼虫の時はそれを木の根に刺して栄養を吸い、成虫になってからは幹に刺して樹液を吸います。



ガガイモの汁を吸う、ヒメジュウジナガカメムシとその幼虫（左）。右は、その拡大。

カメムシもいました。セイタカアワダチソウにからんだつる植物のガガイモの葉では、ヒメジュウジナガカメムシが汁を吸っていました。セミよりすいぶん小さいですが、口はやはり針のようです。じつはセミもカメムシも「カメムシ目」という同じグループで、近いなかまなのです。イネの害虫、イネカメムシもいました。サクラの幹に集まっていたヨコヅナサシガメは何度も紹介していますが、葉を食べる害虫を食べてくれるカメムシのなかまです。最後に、アブラムシもじつは近いなかまなのです。口を虫めがねでのぞいてみましょう。

【理科支援員：宮内】



イネの害虫 イネカメムシ（左）と、葉を食べる害虫を食べてくれるヨコヅナサシガメ（中）、アブラムシとアリ（右）。